

AJE-SIG 報告 2024:

「対話力を体得！」協働鍛錬していこう

—OJAE 道場の実践から—

山田ボヒネック 頼子 (EIJale ヨーロッパ日本語教育学研究所)

梅津 由美子 (ベルリン日独センター)

高木 三知子 (ブリュッセル・フリーランス)

萩原幸司 (城西国際大学)

酒井 康子 (ライプツィヒ大学・言語学院)

大室 文 (カンボジア・フリーランス)

小熊 利江 (ルーヴァン・カトリック大学)

鞠古 綾 (ヴェネツィア・カフオスカリ大学)

要旨

OJAE (オジャエ) グループは 2022 年 8 月 20 日第 25 回ヨーロッパ日本語教師会総会にて第二次 SIG 承認を受け、2024 年 9 月 7 日同年度定例総会において、「AJE-SIG 延長申請」に「認証」を得ることができた。同グループは『臨場場面口頭産出能力アセスメント・評価法』開発という課題に挑戦し、対話力醸成を目的とする日本語教育方策として『OJAE アセスメント法』と『同法鍛錬法』を結晶させ、その具体策として『オンライン OJAE 道場』(英国ヨーク大学主催 OJAE 招聘講師陣研修会後 2021 年 9 月開設)を実施している。OJAE 道場では、道場生同士が、活動国・地域や所属機関の枠を超え、協働で「稽古:自己啓発・メタ観察・考察・評価法」を積んでいる。本発表では、「OJAE 道場」のこれまでの歩みとこれからの展望を報告する。

【キーワード】 CEFR 準拠, OJAE 道場、対話産出力、アセスメント、日本語教育専門性

Keywords: CEFR-aligned, OJAE-Dōjō, Dialog-Output, Assessment, JaF-Expertise

1 OJAE とは：CEFR 準拠日本語産出力対話型アセスメントの7特徴点

OJAE は、「CEFR 準拠日本語口頭産出力対話型アセスメント（以下「アセス」法）であり、以下の7点を特徴とする：①口頭産出力アセスメントに関する欧州圏先行研究を基盤に開発された（ALTE 欧州言語試験者協会ⁱ、CEFR-JF 日本語教育スタンダードⁱⁱ、Cambridge ESOL [英]ⁱⁱⁱ、DELTA-DALF [仏]^{iv}、Profile Deutsch-Mündlich [独]^v）；

階層性	6段階
準バイリンガル (Ambilingual)	(D)
熟達した言語使用者	C2
	C1
自立した言語使用者	B2
	B1
基礎段階の言語使用者	A2
	A1

図1：OJAE レベル 6階層性

②OJAE 6 レベル階層性（図1）基礎段階＝ピンク系、自立段階＝緑系、熟達段階＝黄色系と色分けする。アセス実施レベルは、登壇者^{vi}の自己選択による。「C登壇者2名の「組み合わせ」は偶発的；
③各レベル該当の SCRIPT＝進行シナリオ（台本）の活用により、普遍的な同一性の実施を期し、テスト上での「信頼性」を確保する。この手段により、従来方式で問題とされてきた試験

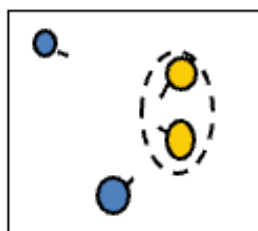


図2：OJAE アセス形態

者の腕の良し悪しが結果を左右するという「弊害」は生じ得ない；

④アセス形態：2-2 形態（図2）登壇者2名一発題者・記録者（両評価者）」；

⑤登壇者の発話3種：〈1〉発題者への応答、〈2〉独話、〈3〉交話—OJAE 最大の特長！両登壇者間に交わされるやり取り＝コミュニケーション；

⑥評価は2方面から：(1) 個人の語学能力：会話の質的側面5領域での評価「2007-2021 EIJALE-OJAE 暫定版：OJAE アセスメント基準表」による話し言葉の質的側面5領域での評価：1)使用幅、2)正確さ、3)流暢性、4)交話力、5)結束性；〈2〉アセス全行程の分析・記述によるコミュニケーション実行評価。

⑦教育羅針盤としてのフィードバックをする。(FB)登壇者&評価者にとっての学びの同型性がある。

2 OJAE 道場とは

2.1 日本語教師が協働鍛錬する拠点

OJAE 道場は、OJAE グループが招聘講師陣として英国ヨーク大学主催オン

ライン・セミナー「学習者の対話力をどのように育成できるか？2021.2-14（日）, 4-11（日）, 6-13（日）」を実施した際に、受講者（日本語教師）たちから OJAE 方式をもっと継続して深めたいとの希望の声が強く上がり、研修会終了後 2021 年 9 月に開設したものである。

OJAE 研究チームは、AJE-SIG としての継続研究活動を上述「OJAE 道場」の一環として組み込んできている。そもそも「道場」とは、一般に武芸の修練だけでなく広く心身の鍛錬を行う場所とされている。OJAE チームも OJAE アセスメント法の認知活動の根底に「からだが学ぶ・からだで学ぶ」という原理を認め、OJAE 法が「腑に落ちた」形で実施されるためにはある程度の繰り返し体験と時間を要すると考える。よって AJE-SIG 活動は、OJAE 研修会のシリーズ開催と重なることになる。OJAE 道場は、日本語教師が協働鍛錬する拠点として「世界中の日本語教育関係者のためのオンライン交流会」として実施されてきているのである。

これまでに OJAE 実践研究グループメンバーの勤務先を中心に以下の 9 つの機関で OJAE アセスメントが実施されている。

- 1, 国際交流基金ブダペスト
- 2, 韓国釜山外国語大学
- 3, ベルギー ゲント大学
- 4, ベネチア カフオスカリ大学
- 5, 中国 北京理工大学珠海学院
- 6, ドイツ ベルリン日独センター
- 7, ドイツ ライプツィヒ大学、
- 8, ベトナム Phuong Dong 大学
- 9, フランス Bartholdi 高校（コルマール）

特に 2024 年 2 月に実施した OJAE アセスメントで、第 3 外国語として日本語を勉強している高校 3 年生 5 人が OJAE アセスメントを受け、フィードバック用紙を渡すことができたことは、特筆に値する。毎回 OJAE 道場に参加してくれている教師の遠藤さんからは、「第 3 外国語のバカロレアがなくなった今、最高の証書になっている」「現高校 2 年生もこの 5 人の先輩に続いて来年 OJAE アセスメントを受けるつもりだ」という嬉しい報告を受けた。



図 3：2024 年 2 月仏 Bartholdi 高校実施：OJAE アセス登壇
証書を手に喜ぶ同高 3 年生 5 名（遠藤真理教諭指導）

2.2 OJAE 道場実践歴

2022年8月にOJAEがAJE-SIG認証を受けてから、これまで(2024年12月)9回のOJAE研修会(OJAE道場)が以下のように実施された。

・第1回	2023年	5月7日	A2レベル	18カ国	41名の参加者
・第2回	2023年	6月11日	A2レベル	13カ国	18名
・第3回	2023年	9月24日	A2レベル	11カ国	25名
・第4回	2023年	11月26日	B1レベル	8カ国	15名
・第5回	2024年	2月18日	A2レベル	5カ国	6名
・第6回	2024年	4月28日	B1レベル	6カ国	12名
・第7回	2024年	6月23日	B1レベル	8カ国	15名
・第8回	2024年	10月6日	B2レベル	9カ国	13名
・第9回	2024年	12月8日	B2レベル	8カ国	14名

3 OJAE 道場実施7段階

OJAE道場は以下の7段階で実施される。

まず、①から③は、事前課題として参加者に取り組んでもらう。

- ① OJAE アセスメント法とは—OJAE 説明動画視聴
- ② OJAE アセスメント実施ビデオ呈示
- ③ 評価法：基準表読み込み>評価実践 (google Forms 記入・送信)

初めての参加者には、まず、OJAE 説明動画を観てもらい、図4のような呈示された当該アセスメントビデオを観て、図5のOJAE アセスメント基準表を読み込んで評価していく。



図4: OJAE アセスメント・ビデオ実践例

④送られた結果を OJAE 側で、下記図 7 のように評価集計表にまとめる。

⑤研修会では、この評価集計表（図 7）を元にキャリブレーション会議を実施する。

⑥評価結果に対する自省・内省＞共有

評価集計表（図 7）内の、○はレベル以上、1 はレベル相当、×はそのレベルに達していないという評価を表す。キャリブレーションでは、レベル標準化会議なので、特に評価が分かれたところをディスカッションするが、同じ○の評価でもその論拠が違うこともあるので、OJAE では、評価の論拠を大切にしている。「評価の論拠明記」は、OAJE 評価シート記載の必須点である。

図 7：評価集計表

また、集計表で各自の評価をこのように並べて提示すると自分の評価軸が甘すぎるのか、厳しすぎるのかが可視化され、評価について自省、内省できる。評価に対するコメント、論拠から相互に学ぶことは多い。

もう一つ大事な点は、OJAE は、会話の質的側面を評価するだけに留まらず、対話力が顕化したところ、例えば、相手の話をよく聞いていて、自己紹介で相手が話したことを覚えていて、別の課題で、そのことに触れるということがあった場合、評価者はそのことを見逃さず、その点を評価できる、目・眼鏡をもつようになる、ということだ。この点については次章 4 OJAE 道場 日本語教育者専門性の鍛錬の場で詳しく論ずる。


このようなキャリブレーション会議を経て、評価結果を OJAE フィードバック用紙（図 8）に記述する。

⑦そして、登壇者二人に評価結果として、フィードバック用紙（図 8）を渡す。


OJAE 結果・フィードバック
OJAE Assessment Result/ Feedback

CEFR レベル：A1-A2-**B1**-B2-C1-C2

Jenni MOEWS： **B1** 合格



European Institute for
Japanese Language Education
ヨーロッパ日本語教育学研究所



CEFR準
日本語口頭産出能力評価法
OJAE Japanese Assessment Europe
Essener Str. 14
10555 Berlin, Germany
https://ejale.wordpress.com/

登壇者	Jenni Moews	日本語学習歴	4.5年	母語/媒介語	ドイツ語
ピア登壇者	Lena Sudhoff	日本語学習歴	2年	母語/媒介語	ドイツ語
採録データ	日時 2024年6月2日	会場：オンライン			
	Video-No.	文字化 No.			
発題者	酒井康子	記録者	梅津由美子		

		しよんば 使用幅	せいやく 正確さ	りゅうらうせい 流暢性	けつまい 結束性	こうわりやく 交話力
レベル ひょうか 評価	I	○ 1 X	○ 1 X			
	II		○ 1 X		○ 1 X	
	III-1	○ 1 X			○ 1 X	
	III-2			○ 1 X		○ 1 X
	IV			○ 1 X		○ 1 X
りょういふく 領域別コメント		趣味など慣れた話題については十分な使用幅がある。慣れていない話題でも適切な語彙を使って話す。	長い発話になると少し正確さが落ちるが、すぐに気づいて訂正ができています。	長めの自由発話で、一定のスピードで話します。	もう少し、接続詞を増やしていけば、まとまりのある発話につなげられる。	相手の理解を確認しながら、ジェスチャーも交えて、話が展開されていく。
ぜんたい 全体コメント： 対話を通じたコミュニケーション		相手のミスを上手に受け止め、落ち着いて自然に流れを変えていこうとする余裕がある。「私たちは友達になりましたね？」などと相手を上手に発話に誘い込んでいくなどのコミュニケーションテクニックも素晴らしい。何よりも、リードしていく力と相手を思いやるところが随所にみられたのはよかった。ただ、今後は、誰とどのようなコンテキストで話しているかを考えて、単なるおしゃべりではなく、より高度な課題に挑戦していただきたい。				
合・否	○・1=1点、×=0点 採点総項目=10項目 10/10点					

1 個人の語学能力：
会話の質的側面 5 領域
での評価

2 コミュニケーション
全行程の分析・記述
による評価

図 8：フィードバック用紙

4 OJAE 道場 日本語教育者専門性の鍛錬の場

OJAE はコミュニケーション土壌を基盤とする「場」型のアセスメントである。登壇者2名がまだ何もない空間を共有して場を作り、そこでお互いが対話を通して関わり合い、必然的に相互に自己変容しながら新たなものを作り上げて行こうとするコミュニケーションの場と捉える。

従来の試験者と受験者間で行われる1対1の口頭能力テストは出された課題に対して期待される回答があり、その回答の如何が言語能力としての正確性や一貫性、流暢性、表現力などを総合した形での口頭産出能力として評価される。従って試験者と受験者の関係はテストをする者とされるものとしての力（縦軸）関係が明確であり、話者間の自由で対等な対話コミュニケーションは期待できない。それに対して OJAE では、登壇者2名が展開する言語行動をコミュニケーションとして観察し、彼等が使用する言語の質的側面でのフィードバックを行うとともにそれに留まらず、彼等の対話者としての両者の関係性から新しい発想を生みだそうとする対話力を見出しフィードバックしていく。

そうした学びの場を単に言語能力向上のための方法としてだけに留めず、その先にある全人格的な生き方として捉えていく過程が登壇者達の日本語学習を超えた、市民性形成としての自己啓発への道を拓くことを可能にしていくものと考えられる。

上記を踏まえて

OJAE は道場という場を提供し、語学能力の教授法の専門性とは異なる協働で新しい日本語教育者の専門性を構築しようとするものである。その具体的方策は「テスト」を越えて、各話者の「コミュニケーション力」に焦点を当て、「口頭産出力・対話力」を伸ばすことにある。この基本理念に基づいて OJAE は新たな教育者の専門性獲得のために以下4つの観点に注目する。

- ① 相手の話を真摯に聞く態度：対話とは単に情報の交換ではなく、相手の話を聴くことを通して自分とは異なる相手の視点に気づき向き合うことで新しい発見をし、また自分自身を知ることにつながる。そのためにはまず相手の話が聞ける能力を養うことが重要である。
- ② 相手を特定の話者としてやり取りをする意志：対話はその場にいる話者を一人の人、人格としてやり取りすることで、それぞれが自分の立ち位置を確認でき、自己変容、自己啓発へと向かうことが可能になる。単なる質疑応答であるならば、相手を変えることができる。
- ③ 対話を展開するための相手への思いやりと想像力：相手の立場や気持ちに共感しながら理解しようとする姿勢をもって対話を展開する。
- ④ 対話と対話でないものの区別：おしゃべりや雑談、伝達ではなく一つのテーマ共有の姿勢をもって相互にやり取りし、両者の関係性から新しい発想を生む力を養う。

<注>

ⁱ <https://www.alte.org/> (2024年10月2日)

ⁱⁱ <https://www.jfstandard.jp/cefr/ja/render>. (2024年10月2日)

ⁱⁱⁱ <https://www.education.govt.nz/school/student-support/english-for-speakers-of-other-languages-esol-information> (2024年10月2日)

^{iv} <https://www.institutfrancais.de/deutschland/franzoesisch-lernen/alle-sprachzertifikate/delf-dalf> (2024年10月2日)

^v Cf. <https://www.goethe.de/de/spr/unt/kum/prd.html> (2024年10月2日)

OJAEは、2021年9月以降、「テスト試験領域概念のパラダイム・シフト」を宣言し、爾後「試験及び関係語」を廃止し、新規用語と交替させた。「試験者・受験者」はそれぞれ「発題者・登壇者」と呼ばれる。「OJAE」は「口頭産出力テスト」ではなく、「アセスメント」である。レベル別「問題」を「テストをする」のではなく、発題者の提供するレベル別「課題」のOJAEを「実施する」のである。

旧用語	新用語
試験者	発題者
受験者	登壇者
OJAE テスト、 OJAE 試験 (問題)	OJAE 課題
レベル別 OJAE 問題	レベル別課題
テストする	OJAE を実施する アセス (メント) を する
OJAE テスト (試験～評価)	OJAE 実践 / アセス